

千葉県議会議員

ふじしろ政夫 と共に県政・市政を変えよう！

発行 ふじしろ政夫

政務調査報告ニュース 2012年6月号

〒273-0122 鎌ヶ谷市東初富5-24-50

TEL & FAX 047-445-9144

Eメール masao.fujishiro@zc.wakwak.com

ホームページ <http://e-kamagaya.com/>

重度自閉症者の“一人暮らし”



はるにれの里

現地調査報告

自閉症(重度)に特化した形で“ケアホーム”を北海道石狩市～札幌市にかけて30ヶ所運営、「施設から地域へ」を実践している社会福祉法人「はるにれの里」を訪れました。

常務理事の木村さん、生活介護「さりゅう」の中野課長からお話を聞きました。重度の障が



視覚支援を語る中野さん

いのケースは往々にして、施設入所という形で対応されておりますが、はるにれの里では基本的に「地域で自律生活を！」を目標にケアホーム(4～5名)あるいは1人暮らしを実施させて

います。厚田「はまなす園」という入所施設を親御さんたちと一緒に立ちあげたのがその端緒ではありましたが、自閉症への支援にとっては室内刺激や施設刺激の大きい入所施設は適当でない。ユニットにしたところで所詮限界があるとケアホームへの移行こそが自閉症の方々本人にとっての幸せだと今の方向性が出されたとのことです。

大きな声を出したり、たたいたりする方でも、その人が何故そうするのか、何が好きなものであるのかをじっくりと当事者から学ぶことで、1人暮らしも可能になった事例も紹介されました。4～5人のケアホーム「うたたね」を視察しましたが、ここでもケアホーム生活が不快刺激にならないよう、又共同生活にならな

いようプログラムを組んでいるとのこと。顔を合わせると刺激になってしまう方がいるので居間を二つ作ってそれぞれ別々に生活するようにしているとのこと。自閉症の方への「学習は必ずできる」「できないことはない」という根本的な信頼関係がここにはあるようです。

更に自閉症の方を親元に帰すのではなく①本人の家はケアホームという形で親離れもできるようにすること②入所施設は親の安全安心の場で本人の安心の場ではないという事への親の意識改革の必要性③地域で支える、と重要なポイントが示されました。

園の運営については、国の単価設定によって事業経営が困難な領域もあるが、入所～生活介護～ケアホームとあらゆる事業を展開することで黒字にしているとのこと。

“施設から地域へ”と言われて久しくなります。実践しているはるにれの里を視察し当事者本人の立場に立った地域の受け皿(ケアホーム)をそれぞれの地域の実情に合わせて作っていく必要性を感じました。インクルーシブ教育・ノーマライゼーションを実現したいものです。

千葉県議会 6月定例議会予定

開会：6/12

代表質疑及一般質問：6/19～6/26

常任委員会：6/28～7/3

閉会：7/6

ふじしろ政夫一般質問

三番瀬、障がい者施策、放射能対策など



《三番瀬現地調査》

牡蠣礁がいっぱい



三番瀬市民調査の方々の活動に参加させていただきました。当日は潮の引きがあまり良くなく、最大でも 20 cm位の浅海の状態。しかし牡蠣礁は立派にその姿をあらわし、そこいらじゅうで水鉄砲のように空に向かって潮を吹いていました。小さなカニが沢山いて動いただけでザワザワと音が伝わってきました。

猫実川河口の泥干潟、多くの底性生物が生息しています。アナジャコの穴も確認、千葉県のリッドデータブックに記載のオキシジミもウネナシトマヤガイ・チュウシャクシギも確認されました。牡蠣礁の前の浦安市側には、第二

湾岸道路予定地が見えます。まさかこんなに生物多様性の豊かな泥干潟を埋めて、人工干潟をつくらうなどとは言わないと思われませんが・・・「塩浜沖に人工干潟をつくることに



猫実川河口の牡蠣礁

熱心な市川市の見識とは一体何なのだろうか？」と浅海の潮に浸りながら不安と憤りすら感じました。ラムサール条約登録をし、より環境を保全しワイズユースしていくことの方が沿岸の人々の利益ともなるのではと思われまます。“へドロの死んだ海”という人には一度牡蠣礁の現地を見てもらいたいものです。

三番瀬の泥干潟は生きているのです。

原発稼働ゼロ



5月5日午後11時、これまで設置されていた54基がすべてストップしました。政府は大飯原発・伊方原発などの再稼働を画策しましたが多くの国民の反対と自治体の首長の慎重論で、ついに原発稼働ゼロの日を迎えました。これから

の新エネルギー政策＝自然再生可能エネルギーへ大きく踏み出す勇気と知恵をそしてビジョンを一日も早く示すべきです。



経済産業省前ハリストテント前

市民の声

下総基地への国産P1ジェット 哨戒機配備反対！

2011年度中に厚木基地に実戦配備する予定だった次期ジェット哨戒機P1(P3Cの後継機)は数々のトラブルと機体の亀裂(昨年4月に主翼5月に胴体にひび割れ7月に離陸寸前にエンジンが停止等々)で年度内配備を諦め2012年度に延期することとなった。この様な欠陥が明らかになったにも拘らず「性能評価」と称して飛行を継続させていた国の住民の安全無視の態度は、ここ下総基地の騒音悪化の放置状態にもみてとれます。

県の騒音調査開始(1991年)以来、鎌ヶ谷市民体育館においては鎌ヶ



谷市の4度にわたるジェット哨戒機P1(2004年白井市・沼南町と共に、2008年柏市・白井市と三市長連名で、2009年2010年と単独で)改善要求にも拘らず、損害賠償に値(75W値以上)するような環境基準オーバーが何と20年連続続いておるのであります。このような状況では、ジェット機P1の教育訓練飛行は到底認めるわけにはいかないでしょう。

苦情はすぐ電話で下総基地へTel 0471-91-2321

道野辺中央 岡崎茂夫

鎌ヶ谷市 給食の食材検査体制

低線量・内部被曝がこれからの最大の課題。呼吸・食事から体内に入ることによって体の機能に影響を与える内部被曝。できる限り入らないように学校給食の食材チェックが各自治体で行われています。

鎌ヶ谷市は、第一第二の各給食センターで月二回ずつ計4回調査をしているとのこと。1回の検査で前日に食材4品目を検査、当日の1食分をすべて混ぜての検査です。

これまですべて不検出でした。



お知らせ

☆「内部被曝を生き抜く」上映会

6/24 13:30～まなびい 500円

☆法律弁護士無料相談 要予約 藤代県議迄

6/23(土)・7/21(土) 13:00～